

三者面談の時期である。中学3年生にとっては勝負の夏である。6月28日(火)・29日(水)には高校説明会を実施し、各高校の先生からの説明を聞いた。夏休みに入り、各高校の体験入学が開催された。他にも各高校のパンフレットや資料がある。ホームページもある。

今まで高校に関する様々な情報を得る機会があった。この時期に、生徒と保護者と担任とが顔を合わせ、現時点での進路希望を確認し、これからどんなことをしていけばいいのかを確認するのが三者面談である。

表向きはそうなのだが、三者面談があるから親子で進路について話し合う必要性が出てくるというのがあるのではなかろうか。進路希望調査にも同様の効果がある。定期的に親子で話し合う機会が設けられているシステムである。

三者面談で一番大きいのは、担任の先生からの励ましだろうか。その生徒の努力や持ち味を認め、共にがんばろう、応援しているよ、いつでも相談してくれ、という思いを伝えることが必要になる。要は、その生徒のことをどれだけ思っているかである。中には、担任の先生の支えがあったからこそ、最後までがんばることができたという生徒もいるだろう。中学3年生の担任というのは、それだけ大きな存在である。

自分が親として面談に参加した経験を振り返ってみた。基本的に家人が行っていたのだが、二度ほど自分が行った記憶がある。どちらも印象に残っている。

一度目は、幼稚園だった。行きたくなかった。緊張しながら園を訪れると、教室のようなスペースに園児が座る小さいすが2つあった。嫌な予感がした。案の定、園児のいすに座らされた。向かいには若い女性の先生が座った。

想像してほしい。広いスペースに、とても大人が座るとは思えないいすがあり、若い女性と中年の男性が向き合って座っている光景を。絶対に人に見られたくない状況である。私も嫌だったが、先生も嫌だったことだろう。それにしても、園児用のいすに座らなくてもいいのではないか。

二度目は、小学校だった。予定時刻よりも15分程度早く到着し、控室に入った。予定時刻になった。前の方が終わらない。5分経過した。よくあることである。10分経過した。まあ許される範囲である。15分が経過した。まだ我慢できる。20分経過した。徐々にイライラしてきた。一向に終わる気配がない。

ここで、ある作戦に出た。廊下の窓越しに教室をのぞき、私の存在を知らせた。要はプレッシャーをかけたのである。だが、無駄だった。結局40分もオーバーした。何事にも限界というものがある。ようやく面談が始まった。口では何も言わないが、無然とした表情をしていたはずである。心の中では、「待たせるにも程がある。いい加減にしろ」と思っていた。同じ教員なので、余計に頭にくる。

こんなわけで、我が家の三者面談の担当は家人だった。彼女なら柔らかく笑顔で、言いたいことはきちんと伝える。質問や要望も的確である。間違いなく私よりも面談に向いている。幼稚園児のいすに座ることができたことも、今ではいい思い出である。どの中学校でも有意義な三者面談になることを願っている。